



しゅうはいら
十方拝礼

美田八幡宮で西暦奇数年の9月中旬の例祭で奉納されます。祭礼は「神の相撲」「獅子舞」「田楽」の3部で構成されます。

美田八幡宮に田楽が奉納されたという記録は天正18年(1590年)が最も古いものですが、口伝によると後白河法王時代に島に入ってきたといわれています。

このうち芸能として特徴をよく残している田楽は地元では「十方拝礼(しゅうはいら)」と呼ばれ、全国的に見ても屈指の芸能であるとして平成4年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

伝統文化



しやーらぶね
精霊船

町内の美田・浦郷地区に残る送り盆行事で毎年8月16日の早朝に行われます。

今から100～150年ほど前に西ノ島では5～6人が乗れるような大型の精霊船を各地区毎に共同で造るようになったといわれています。竹や木を骨組みに、麦わらを船体にし、帆柱を立て、帆には色紙で作られた無数の盆旗を結びつけたその姿は素朴なものです、人目を引きつける華麗さを持っています。



島前では7月になると各地で夏祭りが催されますが、その時奉納されるのが島前神楽です。

県の無形民俗文化財に指定されています。

おきどうぜんかぐら
隠岐島前神楽



日吉神社で西暦偶数年の10月に奉納される祭礼で「庭の舞」「神の相撲」「田楽」の3部で構成されます。

この庭の舞は今から800年前に近江国甲賀郡真野庄の領主であった真野宗源が戦乱を避けて、隠岐に逃れた際に伝わったものといわれています。

平成4年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。



にわのまい
庭の舞